

98. 教科の好き、きらいをなおすには

【問い】 小学校4年生ですが、どうも理科を好みません。小さいときは植物を採集したり、こん虫を集めたりしていたのに最近は何もしません。なぜでしょう。また、どうすればよいでしょうか。

【答え】 教科の好ききらいは、小さなことが原因になっている例が多いようです。なぜ好きでないのかは、お子さんとよく話し合ってみてください。（詰問する形でなく）

理科がきらいだという子どもでも、よく話してみると理科のすべてがきらいということではなく、ある領域は好きでないが、きらいでもないという例が多いことです。そのきらいでない部分を伸ばすようにすることが大切でしょう。

「これは好き」と意識することはプラスになりますが「これはきらい」と意識させることはマイナスです。子どもは意外と先入観が強く、実際は少々興味を感じてきても、きらいだと決めてかかる場合もあります。周囲の人が「あなたは理科がきらいだから」ということは、子ども自身に「私はきらいなんだ」と意識させ、暗示をかけることにもなります。これは避けねばなりません。

子どもは本来、好奇心が強く、自然の事物・現象などを見て「それは何」「どうしてこうなるの」といった疑問を次々に発するものです。「うるさいわネ」とか「そんなこと当たり前でしょう」などと相手にされなければ、興味を失ってしまうのも当然です。もちろん何もかも教えることは不可能ですし、決して望ましいこととはいえません。大切なことは、一緒に考えてみようという態度ではないでしょうか。